

Photo俳句



(2012-11 No.03)

陽香庵 百合樹



酒類は

トランクだよと

娘言い

・孫たちに会いに、アメリカに行く。空港に迎えに来た娘が、帰りがけに、日系スーパーに寄る。小生も下車してビールと日本酒、梅酒を買った。通風を気にしながらもこれから18日間を酒なしで過ごすわけにはいかない。なにせこちらには、歩いていける場所に、居酒屋もスナックもないのだから

。

・買った酒類を車内に置くと、娘から「トランクに入れて!」と怒鳴られる。こちらでは、車内で見えるところに酒類を置くと、お酒を飲みながら運転していると、おまわりさんに誤解されるのだそうだ。

(サンディエゴ)



青空に
投票促す
吹流し

・大統領選挙を11月6日に控えたとはいえ、ここChula Vistaでは、選挙戦の熱気は全く感じられない。娘との会話や、娘の友達との会話にも全くのぼることはない。

・孫娘と近くの公園に出かける途中、青空を背景にセスナ機が吹流しを引いていた。吹流しには「VOTE NICK POPADITCH FOR CONGRESS」と書かれていた。

・ネットで調べると、某下院議員の応援会議のようだが、大統領選に関係する呼びかけのようだ。
・アメリカの大統領選挙の仕組みはよく理解できない。サイトでは下記のような説明があるが、どうも複雑だ。こんな広い国土で、直接選挙できるのか？国内に大きな時差があるこの国で、先に投票が行われた趨勢が、その後に行われる投票行動に影響がでないのだろうか？

★「有権者が大統領候補者に票を投じる「一般投票」は、4年ごとに11月の第1月曜日の翌日（11月2日 - 8日のうち火曜日）に行われる。その後12月の第2水曜日の次の月曜日（12月13日 - 19日のうち月曜日）に、各州で選挙人団が集会し「選挙人投票」が行われる。

選挙人による投票は1回のみである。どの候補者も全選挙人過半数票を獲得できなかった場合、大統領は大統領候補高得票者3名以下の中から下院が、副大統領は副大統領候補高得票者2名から上院が選

出する。下院での投票は通常議決と異なり、選出州ごとに議員団として投票し、各議員団は議員数に関わらず1票を有する。

カリフォルニア州から選出される下院議員が最多の53名であることから、選挙人の人数も最も多く55人となる。現在ほとんどの一般投票有権者はあらかじめ投票先候補者を誓約している代議員団に対して投票する。そのため事実上、選挙人が投票する候補者は一般投票によって決まる。

(Chula Vista)



投票日

複数言語

使用せり

- ・ 大統領選挙の投票日、各コミュニティの入り口に黄色の小さな看板が立てられている。
- ・ 投票所への案内表示だ。複数の言語で表示してあるが、日本語の表示はない。中国語の表示が漢字なので、どうにか投票所を指し示していることは日本人でも分かる。
- ・ プール入り口の集会場にある投票所そばのベンチで昼間、しばらく観察していたが投票に訪れるひとはあまり多くは無い。日本のように日曜日投票にしないのは何故なのだろうか？
- ・ 選挙では、多民族国家アメリカにふさわしくオバマ氏が再選された。

・ 毎朝、孫娘をスクールバス乗り場まで送っているが、バス停で待つ生徒を見るとアメリカが様々な人種の集合体であることが良く分かる。生徒は共通語として英語で会話しているが、母親または父親の出身国言語も習っているか話せる場合が多い。

・ スクールバスは当初、人種差別を無くす目的で運行されたという。その役目は確実に果たしている。

・ ショッピングセンターなどでは、母国語しか話せないか話さない大人も多い。

・ このような様々な人種が同じ国で共存することが出来れば、世の中から戦争をなくすこともできるのでないだろうか。その意味ではアメリカは現在、平和実験の最中であり、ノーベル平和賞受賞者であるオバマ氏はその象徴でもある。

(Chula Vista)

肌の色
言葉の違い
平和実験

神様は
違いを作りて
争わし

アメリカは
違いを認める
実験場

平和とは
違いを認める
事なりし

ネット社会
違い乗り越え
つなぎけり



豪華船

ドッシリと停まる

港町

- ・孫娘の習っているバレエ発表会のためにサンディエゴに来る。
 - ・数年前に、ここへ、友だちと来た時にも、港に豪華客船が係留されていたが、今日も同じ様な船がいる。
 - ・CelebrityXcruisesのセレブリティ・センチュリー号だ。71545t、1814人収容できる超大型客船だ。伊東にも時々（特に、夏の花火の時）豪華客船が来るが、港へは入れずに沖合いに停泊する。岸壁に横着けができるのだから、サンディエゴ湾は相当深い。隣接する軍港には空母も入港するわけだから当然か。
 - ・伊東港でも、このような大型豪華客船が接岸できれば、千数百人の金持ちが上陸するわけだから、町もそれなりに潤う筈だが。
- （サンディエゴ）



孫娘等と
海辺のランチ
眩しけれ

- ・サンディエゴ湾の先端にあるTOM HAMS LIGHTHOUSEというレストランでランチ。ココはステーキと海鮮料理専門店だ。普段は値段が高くて敬遠するが時々、サービス企画を提供するという。娘がネットで調べて選んだ店だ。乳幼児もいるので入れてくれるか心配だったが、乳母車ごと快く入店OKだった。
- ・ビュッフェスタイルで、品数はそれほど多くは無いものの味は全般的に美味しかった。シャンパンが呑み放題だったので、痛風の再発も忘れて、それなりに呑みかつ食べた。日ごろ娘の家では粗食なので、少しばかり食べ過ぎても、太る心配は無い。
- ・子供等がいるので、部屋内のテーブルを選択したが、海風に吹かれながら、おいしい料理とシャンパンはお勧めだ。もちろん、店内は午前11だというのに、満席状態だった。
- ・熱海や伊東にはなぜ、このレベルの料理店がないのだろうか。いな、成功しないのだろうか？
(サンディエゴ)



発表会

暑き日差しに

我慢せり

・孫娘の通うバレースクールの発表会に来る。
・照りつける強い日差しの中、開演前から父兄などが、続々並び始め、長い列ができる。小生はこのように列に並んで待つのが苦手だ。前にいた太ったおばさんの横に出来た少しばかりの日陰にたたずむ。この暑くて強い日差しの下でも、殆どの人が帽子もかぶっていない。わずか数人のアジア系の夫人たちが日傘をさしていたくらいだ。観劇でも、レストランでも、平気で並んで待つアメリカ人は、意外と辛抱強いのかも。

(サンディエゴ)



発表会

我が孫娘探して

カメラ上げ

・ 孫娘の通うバレースクールの発表会にて。（サンディエゴ）



バレリーナ

目指して踊る

幼児たち



揃わない

踊る姿も

微笑まし

(Chula Vista)



衣装では
早くも似たり
プリマドンナ

衣装だけ
早くも似たり
プリマドンナ



姉だねえ
湯浴みし妹を
ビデオ撮り

姉だねえ

湯浴みし妹を

ビデオ撮り

- ・ 5歳の孫娘が産まれたばかりの妹に、時々姉らしい姿を見せる。
- ・ 今日は、湯浴みする妹をママのスマホを使ってビデオ撮影するという。長期出張中のダディに送って、見せるのだという。



乳飲み子が
小さな風呂に
はまりけり

・湯浴みは、バスルームの水洗場にスポンジマットを敷いて行っている。この大きさが今のところ丁度良いのだそうだ。



サマータイム

終わりし朝に

水撒けり

・日曜日の朝（11月4日）、娘が「今日からサマータイムが終わり元の時間に戻る」という。時計が1時間早くなるそうだ。携帯やパソコンはあらかじめ設定してあるので、自動的に時間表示が変わるが、柱時計はそのまま1時間プラスした時間を表示している。

・1時間早まるという概念がイマイチ、ピンとこない。夜明けが遅くなっているのに、さらに時間を早めて、、、、。でも数日たって、ようやくわかった。夕方の時間に余裕が出るのだ。すなわち、日が暮れるのが、遅くなる感じになるのだ。

・＜サマータイムは何時に始まり／終わり、その瞬間、時間はどう変わるのか＞

アメリカの場合は、開始日（4月第1日曜）、終了日（10月最終日曜。今年は11月4日）とも、夜中の2時に切り替わる。夜中なのは、時差調整による市民生活への影響を最小限に抑えるためだ。具体的には、4月の場合、夜中の1時59分59秒の次が3時0分00秒（1時間進む）になる。10月（今年は11月4日）の場合、夜中の1時59分59秒のあと、2回目の1時0分00秒になる。同じ日に、1時から2時までが2回あることになる。

・日本では、占領軍の施政下にあった1948年～1951年の間のみ行われていた。メリット、デミリットはあるが、電子化が進んだ今、時計調整はそれほど問題ではない。

- ・ 婿が長期出張中での出産、スプリンクラーも故障中ということで、庭の芝生が枯れかかっている。そのため、日の上がる前と日が落ちた後の朝晩水遣りをするのが小生の役目となった。日中の日差しが強いので、水遣りを欠かすと植物はすぐに枯れてしまう。前回来た時、裏庭に野菜や草花を植えたが、その痕跡は全くなくなっていた。
- ・ 前庭の芝生を枯らすと、コミュニティから罰金をくらののだそうだ。

(Chula Vista)



青空が
キャンバスならば
誰も画家

- ・雲ひとつ無い青空の日が続く。11月だというのに、日中は30度近い強い日差しが降り注ぐ。雲が無いのだから当然、雨も降らない。
 - ・でも、湿度が低いせいか、陰に入ると涼しい。また、朝晩は長袖やコートが必要なほど寒くなることもある。娘の家にエアコンはない。1階のリビングは石床と板敷きなので、日が差し込まなければエアコンなんかいらない。冷暖房費がいらぬ分、生活費はかからないわけだ。1年中このような天気なのだから、冬服は殆どいらぬので、洋服代もわずかでいい。
 - ・青空をキャンバスに見立てて、写真を撮れば、誰でも上手な写真家か画家になった錯覚に陥る。
- (Chula Vista)



広場には
各国料理が
匂いくる

・ショッピングセンター内にある公園での昼下がり、ベンチに腰掛けて日差しを避けて読書していると、様々な国々の料理の臭いが漂ってくる。日本料理（持ち帰り寿司）、メキシコ料理、中国料理、ステーキ屋、ハンバーグ屋、コーヒーショップなど小さな店が並ぶ。

・最近、日本の公園ではゴミ箱の姿が無いところが多くなっている。住民のマナー低下で家庭ゴミや犬の糞などを捨てる人が多いので撤去しているそうだが、ここでは至るところにゴミ箱がある。ゴミ箱というより、コンクリートで作られた大きくて頑丈なものだ。

(Chula Vista)



朝早く

黙して草取る

人ありき

・早朝、ショッピングセンター内のあちこちで、清掃員が働いている。ゴミの処理も彼らの仕事だ。ゴミ箱を撤去することは彼らの仕事を奪うことになる。以前、台湾の街中で、あらかじめ決められた範囲を早朝掃除している老人達を見たことがある。真夜中、現地の友人は、平気で道路にゴミを捨てた。彼らの仕事をなくさないためでもあるらしい。清掃員はボランティアでなく市が労賃を支払っているのだそうだ。

・メキシコ国境に近いカルフォルニアには、違法滞在者も多い。生きるためには働かなくてはならない。

・日本では生活保護受給者の増加、無年金者の増加が問題化している。働ける身体を有している間は、働く場があり、働く意欲が求められる。

・無駄といわれる土木関係の公共事業費の削減が生活保護受給者の増加の一因だと指摘する人もいる。一方で経費削減しても、別のところで経費が増加しては、何にもならぬ。同じ財布の中のお金移動するだけだから。働かなくて保護を受けるより働いて一日の糧を得る方が人間としてプライ

ドも保てるし、幸せでもある。

平穩とは
誰にも等しく
仕事あり

人は皆
役割ありて
生きるなり
(Chula Vista)



太陽が
描きし影の
縞模様

・ 燦燦と降り注ぐカルフォルニアの陽光が色々な影を描き出している。そのような影模様を見つけるのも一興だ。

(Chula Vista)



DMの

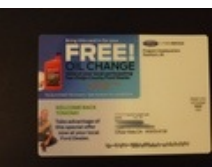
スクラッチに押され

買い物す



- ・郵便車が止まり、郵便受けBOXに次々と手紙を入れていく。しばらく見ていたが約70個あるBOXのほとんどの、郵便物が配られ、入る。
- ・娘は、毎日か2日に1回はBOXを開けに寄る。ほとんどがDMだ。クリスマス控え、子供向けの玩具のDM、子供が産まれた情報がどうして渡ったのか新生児向けのDM、日本人向けマーケット、大型ショッピングセンター、色々特典をうたったものなど、様々。娘は、DMを丁寧に見て、時々ネットでも確認している。
- ・新聞宅配がないので、日本のような折り込み広告はないが、インターネット時代にあっても紙媒体のDMはすたれていないようだ。
- ・そんな中の一つに、スクラッチカードがあるから、買い物に行くというので同行した。
- ・スクラッチには1枚につき、3個の伏せ丸がある。お金を払う時に、自分の好きな部位を指差すと

、レジ係が傷をつけて開ける。5 %の数字がでたので、買ったきんがくから5 %減額された。同カードには5、10、15、25 OR 50%OFFとある。娘曰く、ほとんどが5 %だ。案の定、2回レジに行ったが2回とも5 %で、帰りに残ったカードをスクラッチしてみたが、やはり、全て5 %だった。でも、購買欲を駆り立てる手法としては効果を發揮しているようだ。



・DMの中にオイル交換無料のカードが付いたフォードディーラーのはがきがあった。宛名を含めてプラスチックに印字してある、費用のかかったしろものだ。ちなみに娘は日産車に乗っている。

(Chula Vista)



減速盛り

そろりと走る

車たち

日米で

壊れる部品

異なれり

- ・ 昨日朝、娘の車のエンジンがかからない。友人に電話して、ケーブルをつないで始動する。
- ・ そのまま、友人の旦那が経営しているという修理工場に持ち込み診て貰ったところ、バッテリーその他には異常がないので、車のキーの電池が切れかかっているのではないかといわれ、ディーラーに行く事を勧められたという。
- ・ 予約がとれたというので、ディーラーに同行する。受付担当が、ユーザーから事情を聞き、故障診断を開始。45分の予定が1時間をオーバー。やっと、件の担当者が診断書類を持って、娘に色々説明している。娘から聞くと、バッテリーとキーの電池はまだOKだが、前輪のタイヤの交換とサスペンションの交換を勧められたという。その値段が日本と比べて高いようだ。
- ・ 娘はその勧めに従わずに、なにやら交渉している。その後、受付担当はなかなか戻ってこない、再三、時間が無いのでと催促して、車が戻ったのが来てから約3時間経過していた。
- ・ 聞いてみると、診断料として25ドル支払ったという。

・説明は丁寧というか、お客様に了解なしで、新たな作業には進まないようだが、メカニックとの連携や作業順番などで、時間がかかったようだ。というより、受付担当（フロントマン）の役目は、お客様をいかに説得して、財布の紐を緩めてもらうかにあると見た。

・長時間待合室にいた間、一度、セールス担当が近付いてきて、娘に話しかける。何を話しに来たのか聞くと、ローンの残りはどの位有るかとか、新車に乗り換えれば、ローンの借り換えや下取りで、今、お勧めの車があるなど、話したと言う。車は現金で買ったので、ローンの残りはないし、買い換える気はないと、断ると、彼は自分の席にすんなり戻ったという。

・セールスマンの動きをしばらくウォッチしてみる。各人、間仕られたスペースに机とパソコンが1台。お客様が机を挟んで座れる椅子が3脚ある。お客がいない時は、何やらパソコンで情報を確認したり、時たま電話をしたりしている。個々人が顧客を持っているようだ。また、様々な人種のセールスマンを配置しているところからみると、それぞれ得意な言語での対応が可能なくみにもなっているようだ。

・個々の作業や部品の値段がどうこうというのは、日米で状況が異なるのでアドバイスは控えたが、タイヤの交換時期はユーザにも目視で判断できる。後ろのタイヤ2本は、まだ代えたばかりというので、まだ新品同様だったが、前のタイヤはやや磨耗しているもののスリップサインが出るまでには至っていない。

・サスペンションの交換が必要かどうかはわからないが、言われてみれば、ワンボックスカーとは言え、少しクッションが悪い気もする。ここ数日、娘の運転でこの車の後部座席に乗っているが、家の周りとか、ショッピングセンター内とかに、車の走行速度を落とさせるために、やたらと、BUMPが設定されている。娘は、乳飲み子が乗っているにもかかわらず、それほど速度を緩めることなく、これを乗り越えるものだから、そのたびに、孫の様子が気にかかっていた。こんな運転をしていたら、サスペンションも壊れるのかもしれないという、娘は、それ以来、静か越える運転に変わった。

・そういえば、以前、経済産業省のお膳立てで、東京で行われた、日米の自動車再生部品シンポジウムに取材で出席した時、双方の論議がかみ合っていないことがあった。アメリカの業者はショックアブソーバーなどアメリカでは良く売れている部品を日本のバイヤーがなかなか買ってくれないとのクレームを提示していた。日本側の業者が説明しても、日本の事情を理解できなかったようだ。日米で自動車走行環境が異なるので、磨耗部品、交換頻度の多い部品の種類が異なるのは当然だ。そういえば、昔（30年以上前）、アメリカの自動車修理業界視察団に同行した時に、マフラー専門修理店が立派に経営が成り立っていたのを不思議に思ったことを思い出した。この店には、マフラー用の様々な太さの鉄パイプがそろえてあって、お客の車に合わせて、マフラーを作ったり、修理していた。いまでもあるのかと注意してみても、見当たらなかった。

・ちなみに、大規模経営の車体整備工場があったので、外観のみ撮影した。日本では、独立系専門工場で、これほど大規模経営の工場はないのが残念だ。大規模経営の車体整備工場は、過去に何件も取材したが、どこも経営コンサルタントが絡んでいるようで、システム的には類似していて、取材対象としては、新鮮味が薄かった記憶がある。

・それにしても、こちらでは、車がなければ、どうにもならないことだけは、改めて理解した。孫娘をスクールバス停まで送った帰りは、散歩しながら帰るのだが、ワンプロックを回ったり、ショッピングセンターエリアを迂回するだけで、1時間以上かかる。幸い、どこも車道・自転車道・歩道が区分されているので、歩きやすい。たまに、ジョギングしている人にあうが、長距離を散歩している人にはめったに出会わない。

・その後、娘は出張中の婿に連絡をとり、彼のアドバイスで、ディーラーの勧める部品の交換修理を行うことを決めた。

(Chula Vista)



幼児（おさなご）の
ひとり写真に
道具あり

- ・孫達の写真を撮りに行くというので、大型ショッピングセンターに行く。このようなところは、最近、日本でも少なくないので、目新しい感じはしない。
- ・最初に訪れた写真館は、本日は予約で一杯だし、写真もその日には渡せないというので、別の写真館に行く。こちらの方がやや規模が大きい。チェーン店で、あちこちにあると言う。
- ・娘は、ネットで調べて、クーポン券も持参している。予算の関係で2カットのコースを選択して、入店後、1時間くらいしてから、撮影を開始した。スタジオは3箇所あり、いずれも、満杯の状況で撮影が行われている。みな、子供を中心としたファミリー写真だ。カメラマンも慣れたようすで、色々なあやし用具を駆使して、子等の一番いい表情を導き出す。でも、新生児にはこの手は、まだ通用しない。眠り、泣くのを、そばで母親がミルクをかかえながらサポート。クリスマスにちなんだ小道具をいろいろ取り替えながらの撮影。上の孫とのツーショットや私も参加してのショットも撮影した。2カットのコースの割にはカット数が多い。
- ・撮影後、担当したカメラマンが、パソコンに映し出した、今撮ったばかりの写真を見せてセールス開始。当初、お客様が申し込んだカット数など、ほとんど関係ないようで、撮影後のセールスで、カメラマンの実力が判定されるようだ。額つき、アルバム、バックやカップなどへの転写、写真加工など色々な商品を勧めている。デジカメの時代、写真館の売り方手法も変わらねば・・・。
- ・娘は、結局、全ての撮影カットが収録されたCDと、大判写真、L版写真、同じカットを1枚に並

べたものの数枚を購入、3千円の予定が約8千円となった。撮影の苦勞からすると安いと感じた。

・カメラマンは撮影が上手だけではインカムが上がらないのであって、いかにお客様に、気持ちよく、多くの写真を買っていただくかの能力が大事な時代になっているようだ。その意味では、むしろ、デジカメ時代になったからこそ商品アイテムが増え、写真館としての新たな経営展開が可能になっているようだ。

・昨日のカーディラーのフロントしかり、本日のカメラマンしかり、きっかけは安くお客を誘い込んで、いかに多くの商品を売るかに努力しているプロ根性は共通している。

(Chula Vista)

幼児に
お地蔵見たり
寝入りばな



幼児に

お地蔵見たり

寝入りばな

別れの日

乳飲み児の香が

いとおしき

- ・ 18日間に及ぶ孫達との生活も今日でお別れ。
- ・ 寝入りばな、まだ確かには見えない目を薄くあけ、むしろ、こちらをいとおしく包み込むような、まるで地藏様のようなまなざしを見せる孫が、今日で1カ月目。
- ・ 産まれたばかりの孫の顔も丸く太り、可愛さがいや増す。
- ・ 今度、いつこれるやら。健康で長生きしたいと欲が出る。

イラスト出典＝お地蔵さんのイラスト素材画像集【お地蔵様】を借用させていただきました。

<http://matome.naver.jp/odai/2129058232773895801>



夜泣きする

幼児抱き

昼寝かな

- ・夜中じゅう断続的に泣いていた幼児に授乳を済めせると、眠る。つい、自分もそのまま寝入ってしまう。
- ・そんな母子を気使って、そのまま寝かせておいた。

(Chula Vista)



ほにゅうびん
哺乳瓶

あごも
吾子が持ったと

じまん
自慢せり

哺乳瓶

吾児が持ったと
自慢せり

- ・車の中で、1ヶ月目になったばかりの孫に哺乳瓶で乳を与えていたら、寝てしまった。そっと、瓶から手を離しても、孫は手を添えたままで、あたかも、自分でミルクを飲んでいる写真が撮れた。
- ・後で、娘に見せると、「うん、スゴイ、頭がいい」と自慢する。
- ・このミルクは優れもので、蓋を開けて、乳首付きの蓋を閉めれば、そのまま乳幼児に与えることができる。しかも、温めなくてよく、そのまま与えてOKだという。（日本の気候ではどうか不明）ビタミンなど赤ちゃんに必要な栄養剤も入っているとのこと。使い捨てなので、少しもったいない気もするが、便利なことは確かだ。スーパーでも、冷蔵棚でなく常温の棚で売られていた。
- ・帰国後、娘に、「ママは使い捨ておしめも、このミルクもない不便な状況下でお前たち姉妹を育てたんだね」とメールをしたら、異国で1人でがんばって子育てしている大変さが、少し和らいだようだ。

(Chula Vista)



行進は いじめ防ぎの 腕組みで

- ・孫娘の通うキンダースクール（幼稚園）の朝会に出る。ここは公立学校で、キンダースクールと小学校が一緒になっている。
- ・多種多様な民族出身の生徒が通う学校。いじめ防止について、細心の注意をはらっている。写真は生徒等が教室から講堂に向かう行進風景だ。
- ・皆、腕組みをして歩いている。何故かと聞くと、他の生徒を突き飛ばしたり、チョッカイを出さないためだという。中には反抗して、腕をポケットに入れている子もいたが、先生は目を光らせており、即座に注意する。
- ・講堂に入って、教頭先生の話を聞いているときも、少しでも、不審な様子が見えると、先生は、その子のところへ行って、注意した。
- ・孫娘のクラス（キンダースクール）では、毎日。帰る時に、先生から、カードが手渡される。青・緑・黄・赤のいずれかのカードだ。孫娘はイエローカードを2回もらったとのこと。1回目は、チョッカイを出された男の子に向かって「嫌い」といったかどで、2回目は、授業中、隣の子とおしゃべりが過ぎたためだという。イエローカード、レッドカードをもらう日は、先生から父兄あてに、理由を詳しく書いたEメールが事前に届くという。そして、レッドカードが一定期間続くと、退学させられることもあるとのこと。
- ・多種多様な人種がひとつの教室で学ぶには、イジメ防止、生徒指導に、かくもこと細かなシステムが作動しているのだ。
- ・日本においても、早晚、色々な人種が入り混じった状態での教育現場となる。そうでなくても、イジメが社会問題化している。イジメはあるのだという前提での教育システムが必要な時代だ。
- ・なお、娘の話では、先生は一般的に怖い存在であり、父兄に対しても強い対場だという。強いというより、自分は先生としてのプロであるとの自信と自覚が強く、父兄からその権威を損なわれることはないようだ。（Chula Vista）



生徒等が

力のかぎり

うたう国歌

- ・孫娘の通うキンダースクールの朝礼に出る機会があった。
- ・先頭の生徒達が、国旗と校旗をささげながら、児童が行進して講堂に入る。続いて、昔の日本で行われてた教育勅語のような長い宣誓文を全員で唱和。そして、国歌を皆で力いっぱい歌う。
- ・後日、この長い宣誓文を孫娘達が暗誦していたのが分った。アメリカ国民として、国家に忠誠を誓うというような内容だそう。
- ・米国の主導で進められた日本の憲法や教育システムがなぜ、米国流にならなかったのか？



2012-11-03

皆の前

表彰されて

胸を張り

- ・キンダースクール（幼稚園）に通っている孫娘が表彰されるということで、朝会に出る。
- ・今日表彰されるということは本人には内緒だが、父兄には事前にメールで知らされている。
- ・表彰状には「recognized for storong academic achievement in all areas」と書かれている。
- ・一人ひとり名前を呼ばれ、校長から表彰状を受け取り、壇上に並ぶ。幼稚園児から小学低学年生まで、総勢22名。
- ・娘の解説によると、年間を通せば、誰でも1回は表彰されるのだという。でも、本人にとっては、サプライズであり、嬉しく、誇らしいのである。
- ・アメリカの企業でもよく、従業員の表彰を行う。昔、取材したある自動車修理工場では、毎月ベスト従業員が表彰され、写真入りで張り出されていた。そして、その工場では、その月表彰された従業員は、褒美として、工場にいちばん近い場所の駐車エリアを使用する権利が与えられていた。
- ・アメリカで一般的なチップ制度なども、同じような目的で行われているものだ。（Chula Vista）



園庭が

キャンパスになる

幼稚園

- ・孫娘の通うキングスクール（幼稚園）の園庭に、チョークで落書きがたくさん書いてある。
 - ・チョークで自由に絵を描くことが出来る場所は、ショッピングセンターの広場などにも設定してある。
 - ・幼児に自由に絵を描かせるのは、幼児教育の現場でも重要視されており、教室内でも、宿題でもお絵かきや紙工作が多い。
 - ・孫娘も絵を描くのが大好きだ。
 - ・幼児の描く絵は自由で広がりがあり、創造性ゆたかだ。
 - ・そのため、描かれた絵を固定概念で推し測るのはタブーだ。
 - ・～の絵だねと尋ねるのはだめで、～を描いたの？と聞く方が、本人を傷つけなくていいそう。
- （Chula Vista）



キンダーの 教室までが I T 化

- ・孫娘の通うキンダースクール（幼稚園）の教室に入る機会があった。
- ・日本の幼稚園と大差はないが、教室に本がたくさんあったのと、パソコンが4台あったのが目に付いた。
- ・孫娘は幼稚園からよく本を借りてくる。教室に小さな図書館が併設されているのだ。
- ・読書の習慣は小さな時から始めるのがよい。
- ・パソコンは園児も使うそうだ。今の子供は小さい時からゲーム機で遊ぶくらいだから幼稚園にパソコンに違和感はない。



- ・先日のテレビで、小学校で情報端末を使っている様子を映し出していた。（写真上）韓国などでも、紙の教科書から情報端末使用へと代わったとのニュースを読んだ記憶がある。
- ・紙の教科書より情報端末を使った方が費用的にも、教育効果の面でもベターなのだろう。
- ・日本で紙の教科書から情報端末に移行するのはいつになるのだろうか？なんでも利権が存在する日本で、移行が遅れることが、教育の遅れにつながらなければいいが・・・

- ・ ネット社会が一般化した現代でも、選挙にネット利用ができない日本。これでいいのだろうか？次期首相の安倍氏がネット企業の経営者を集めて、次回の選挙までに、ネットの活用方策について検討するよう指示した。
 - ・ 情報社会はトップリーダーの判断の遅れが、大きな遅れ・格差につながる。
- (Chula Vista)



孫娘

指を使って

宿題す

- ・キンダースクール（幼稚園）に行っている5歳の孫娘が宿題をやっている。
- ・公立の幼稚園なのに、毎日、たくさんの宿題が出る。
- ・足し算・引き算の宿題をやっていた孫娘。やはり、最初は指で答えを出しているのだ。
- ・毎週土曜日は、幼稚園は休みだが、日本人学級（塾？）へ通っている。ここでも、宿題が出ている。
- ・日本の公文式のようなペーパーが多く、孫娘は空きマスに入れるテストと迷路解きが好きだ。小生の待ってきたipadにある黒板アプリで問題を出し合って遊んだ。
- ・娘からは、孫娘が日本語を忘れないように、なるべく日本語で会話するようにと厳命されていたので、こちらでの会話生活にはまったく支障なかった。
- ・スーパーマーケットにいても、色々な言語が飛び交っている。ここChula Vistaはメキシコに近いこともあってスペイン語を話す人も多い。孫娘の通っている幼稚園にも色々な人種が混在しており、娘の会話にも、時々スペイン語が混ざるそうだ。
- ・中学以来何十年も英語の勉強をしてきたのに、満足に英語が話せない小生をよそに、孫娘はわずか5年で英語、日本語を話すなんて・・・。語学は勉強や頭で学ぶのではなく、習慣で学ぶのだと一人合点している。



本を載せ
モデル歩きで
得意顔

- ・キンダースクール（幼稚園）にスクールバスで通う孫娘を迎えに行くのが小生の日課だ。
 - ・お転婆の孫娘は、ランドセルを小生に渡すと、帰り道にある土手やブロックに乗って歩ったり走ったりする。
 - ・この日は、絵本を頭に載せて、ブロックの上をバランス歩きする。モデルにでもなった気分なのだろう。何をしても絵になる年頃ではある。
- （Chula Vista）



公園は こうえん チャレンジ精神 磨くところ せいしん みが

公園は

チャレンジ精神

磨くところ

- ・歩いて20分くらいのところにある公園に孫娘と行く。
- ・幼児用の遊具がおいてあるエリアとバーベキューなどのできるエリア、そしてサッカーなどができる芝生の広場がある。
- ・サッカー場では、サッカーが行われていたが、遊具エリアには孫娘の他には人がいなかった。少しすると、2～3歳くらいの男の子が父親と来て、滑り台のところで、ボール遊びをし始めた。
- ・孫娘は、誰とでもすぐに仲良しになれる婆さん（亡妻）ゆずりのところがあって、さっそく、ボール遊びの仲間入り。
- ・遊具をみると、ブランコや幼児用の滑り台を除くと、日本ではあまり見られない危険そうなものが多い。
- ・山型のすべり台、ボルダリング、山登りなど、孫娘がひょいひょい登るのをハラハラして見ていた。遊具のしたには木のチップが厚く敷かれているので、落ちても大怪我にはならない工夫はされている。
- ・ブランコに乗った孫娘が背中を押して揺らしてくれというので、思いっきり押していたら、いきなりブランコから飛び降りたので、再度の要請は断った。
- ・日本では、最近、危険と思われる遊具が次々と取り払われている事例を散見する。子供たちの安全のためとしながらも、万一、子供たちが遊具で怪我した時に、公園管理者に責任が及ばないようにと

の真の目的が見え見えだ。

・大人たちの無用の配慮が子供たちから冒険の楽しみを奪い、結果として、危険回避能力が欠如した子供を生んでいるのである。木登りも出来ない、岩登りもできないひ弱な子供は、自立できない大人になりかねない。

(Chula Vista)



朝食は
残りのおでんで
簡単に

- ・長女をキンダースクール（幼稚園）行きのスクールバスまで送り、1時間ばかり遠回り散歩をして戻ると、娘は生まれたばかりの次女とまだ眠っている。早朝まで夜泣きが続いていたので、疲れたのであろう。起こさないでおこう。
- ・台所に、昨日の夕食の残りのおでんがあったので、あたためて、ビールを持って、庭に出る。おでんとビールでのシンプルな朝食だ。陽のあたるところは暑いが、日陰は涼しく、ビールが美味しい！
- ・連日のシンプルな食事と長時間の散歩のおかげで、こちらに来て4キロほど減量できた。
(Chula Vista)



今日もまだ
お持ち帰りかえ
で出る朝餉あさけ

今日もまだ
お持ち帰りが
出る朝餉

- ・娘と外食すると、残った食事はすべて持ち帰る。こちらでは、持ち帰るのが普通のように、店員は手際よくパックしてくれる。紙の器であったり、プラスチックの器であったり店によって器に違いがあるものの、いずれの器もそのまま電子レンジで暖めることができる素材で作られている。
- ・使い捨て、廃棄文化の元祖のように思っていたアメリカでの食事スタイルが以外に堅実で、食物を大事にしているかを垣間見た感じだ。それに比べると、今の日本の実情は、コンビニでも、レストランでも簡単に捨てるのではあるまいか？その多くを外国から買い入れているわけで、いつまでも、こんなことをしていたら罰があたるというものだ。気候の違いで、食中毒などの心配があるかもしれないが、それならば、夏季以外の時期には、残った食事は持ちかえって食べるという食文化を確立すべき時期だ。
- ・それにしても、娘が、残り物料理がなくなるまで、毎回の食事に、根気よく出してくるのには、いささか閉口した。

(Chula Vista)



スターバ
イエスとノーで
飲むコーヒー

スターバ
イエスとノーで
飲むコーヒー

・孫娘を連れてスクールバス停に出かける時、娘に「今朝はスターバックスでモーニングコーヒーを飲むから朝飯はいい」と言い残してでかける。娘は「レギュラーといって注文すれば大丈夫」と送り出す。日本でも、この種の店でオーダーするのは難しい。ユーザー側がいろいろとセレクトするのが面倒なのだ。

・バス乗り場から道路を挟んで向かい側に大きなショッピングセンターがあり、その左奥にスターバックスがある。7時半過ぎなのに、続々とお客が入ってくる。店内もお客でごったがえしている。恐れをなして、そのまま、散歩して家に戻った。

・昼前、再チャレンジすべく、再びスターバックスに向かう。この時間なら空いているだろうから。店員に、「レギュラー」と一言いい、ケースに入っていたドーナツを1個追加で注文、レジに表示されていた金額を支払い、少しきたお釣り銭を寄付BOXに入れた。アメリカで1人でスターバックスでコーヒーを飲むことに成功した小さな喜びをかみ締めながら、外のテーブルでコーヒーを飲む。さわやかな風に吹かれ、青空を眺めながら1人コーヒーは人を詩人にする。

・5歳の孫娘はキンダースクール（幼稚園）に月曜～金曜日まで通い、土曜日は日本語学校に通っている。日本語も英語も話せるのだが、日本語が段々怪しくなってきたという。娘からは、日本語を思

い出すために、日本語で孫娘と話してといわれている。

・かくて、こちらに来てても全て日本語しか使わない生活が続いている。買い物でも、イエスとノーがいえればほとんど用は足りるのだ。

・日本に帰る途中、ロスでの乗り継ぎに戸惑ったが、イエスとノーと指差しだけで、どうにか帰りの飛行機に乗ることができた。年老いた爺やが英語を学ぶより、孫娘や婿殿が日本語を学んでくれた方が早いし、確実だ。

・スターバでの買い物に自信を得たので、後日、同じショッピングセンターにあるウォルマート内のサンドイッチ屋SUBWAYでサンドイッチを買うことに挑戦。この時は孫娘も一緒にいてくれたが、やはり、イエス&ノーで買うことが出来た。思っていたより美味い！

・店名は、潜水艦型のサブマリンサンドイッチ（SUBMARINE SANDWICH）を客の好み（YOUR WAY）に作ることからきているという。娘の言うには「日本にもある」そうだ。調べてみると、日本ではサントリーホールディングス子会社の日本サブウェイ株式会社が、1991年にアメリカのSUBWAY社とマスターフランチャイズ契約を締結し、直営店、フランチャイズ加盟店の両輪で展開しており、すでに400店舗を超えているという。

・世界店舗数は2011年11月時点で3万5668店とマクドナルドの約3万3000店を超え世界最大の飲食店チェーンになったようだ。

・お客のセレクトを聞きながらサンドイッチを作っていくので、混む時は待ち客が列を作る。気の短い自分は、混んでいる時は敬遠するだろうが、味の好みとしては、マックよりこちらの方に軍配をあげる。日本でもマックを凌駕する日がくるかもしれない。

・ちなみに、伊東に、マックが2軒あるが、SUBWAはゼロだ。

（Chula Vista）



安全を
あんぜん

皆でカバーす
みな

黄色バス
きいろ

安全を

皆でカバーす

黄色バス

- ・アメリカ滞在中、毎朝、スクールバス停まで、孫娘を送っていくのが、小生の役目になった。
- ・スクールバスの色は黄色に決まっていて、誰にも分る。学校への児童達の送迎を専門に行うバスだ。
- ・このバス安全運行のために、多くの規制が設けられている。
- ・乗降扱い中は、運転席上部のライトが点滅、車両側面からSTOPと表記された赤い八角形のサインボードが出て、子どもがむやみにバスの前を横切らないよう遮断バーが前方に飛び出す。この時、後続車はたとえ片側に何車線あっても追い越しを行なってはならない。また中央分離帯がない場合は、対向車も停止しなければならないことになっている。このため、アメリカで自動車を運転する場合は、特にスクールバスに対する注意が必要となる。

(Chula Vista)



シャチのショー
水かけられて
はしゃぐ子等

・サンディエゴにあるシーワールドに孫たちと行く。ここはバドワイザービールで有名なアンハイザー・ブッシュ社が所有する、米国最大級の海のエンターテインメントだ。ビール会社が経営しているだけあって、園内でビールが飲めるのがうれしい。

・人気のシャチのショーでは、シャチが水をかける場面で大きな歓声が上がった。プールの近くにいるとずぶぬれになる。お客さんも良く知っていて、防水の用意をしている。孫と私は、少し上の段にいたが、水しぶきがここまでわずかに飛んできた。

(サンディエゴ)



水中に
手を差し入れて
エイ触り

- ・サンディエゴ・シーワールドにて。孫娘は、手でさわることができるエイの水槽からなかなか離れようとしなない。
- ・餌が売っていて、餌をまくと、エイが集まり、手を入れて触ることができる。

(サンディエゴ)



自転車を
載せて走るや
路線バス

- ・ 路線バスが自転車を載せて走っている。
- ・ 新興住宅街の道路には自転車専用ラインが設けられている。
- ・ 自動車社会のアメリカだが、エコの観点から自転車が見直されているようだ。路線バスや列車が自転車を気軽に載せてくれば、自転車活用の場面は、もっと広がる。
- ・ 自転車の電灯は以前から自家発電装置で光を発しているなど、エコカーの元祖ではある。
- ・ 日本でも、自転車専用道路の拡充が叫ばれてはいるものの、いまいち進んでいない。これからの公共投資はエコ重視の観点から自転車道路の拡充にもっと力を入れてもらいたいものだ。
- ・ 数年前、長女にプレゼントされた電動自転車は、大仁の畑においてある。坂の上の家まで登るのによかろうと買ってくれたのだが、電動自転車は坂道には向かないことがすぐに分った。ペダルを漕ぎ続けなければアシスト装置が働かない仕組みなので、長い坂や傾斜のきつい坂は、後期熟年者には無理だ。かくて、平地で、車の往来もほとんどなく景色のいい、大仁ふるさと農園においているが、冬は寒くて、夏は暑くてと、言い訳が先立ち、あまり乗る機会がない。（Chula Vista）



飼い主に
アフターケアを
うながせり

飼い主に

アフターケアを

うながせり

- ・この装置も公園や道端、公共施設の周辺によく見かける。ペットゴミステーション、すなわち、散歩中のペットの糞を捨てるゴミ入れだ。生分解性のビニール製ゴミ袋がセットしており、その使い方まで図示しているものもある。すなわち、魚屋がビニール袋を手にかぶせて、魚をつかみ、袋を裏返して入れる手順と同じだ。
- ・拾った糞は、そのまま備え付けの、ゴミカゴに入れるシステムだ。
- ・これを誰が管理しているか聞き損ねたが、いたるところ設置してにある。袋もきちんとセットしてあるし、装置もクリーンに保たれているので、きちんと管理されていることは確かだ。
- ・このシステムが日本でもなじむかどうかは疑問だが、芝生にはよくマッチしている。

(Chula Vista)



公園に

ゴミ入れあるは

あたりまえ

・こちらに来て、気付いたことのひとつに、公園やショッピングモールなど、公共の場所には必ず、頑丈なゴミ入れがあったことだ。ゴミ入れにはChula Vista市のマークが印字されているので、ゴミ処理は市で行っているであろう。

・最近、日本の公園では、ゴミ入れが撤去されている事例が多い。危険遊具の撤去と同様、公園利用者の便より、公園管理者の便が優先されている現われである。

・小生の家の前にある大南公園でも、だいぶ前にゴミカゴは撤去されている。家庭ゴミまで入れてしまう不埒なヤカラが多いからだと言ったことがある。そんなことは、家庭や学校のしつけの問題であり、公共道德の欠如を棚に挙げて、ゴミ入れを無くすのは、どこかおかしい。

・市の予算がないのという言い訳も同様だ。生活保護受給者の増加が社会問題化しているが、身体健全な人も少なくない聞く。働く場を奪っておいて、生活保護受給者の増加を問題視しても始まらない。公園の掃除やゴミ処理の仕事を高齢者や職のないフリーターなどの一時しのぎの仕事にすれば、生活保護費を全額もらわなくても生活できる人は増えるはずだ。市から出るお金の総額が変わらなければ、仕事で支払う方がいいに決まっている。

- ・写真の手前に写っているのは、バーベキュー用具とその時に出る、灰捨て専用のゴミ入れだ。日本でも、昔は公園の落ち葉を公園内で燃やすのが冬の風物詩のひとつであった。それが、今や、公園内の火気使用を厳禁している公園がほとんどだ。広々とした公園で家族や仲間が集まって、バーベキューパーティをするのをなぜ禁止するのか？昔は問題のなかった落ち葉焚きをなぜ禁止するのか？公園の利用者の側に立った運営がなされていないからにほかならない。
- ・夏の花火しかり。1年中、毎日やるわけでもないのに、公園での花火も目の敵にする。夏のひと時だけなのだから、もっと、大目にみてもよからうに。公園に隣接する住人にとっては、早朝、ヘタなトランペットを吹かれる方がよっぽど迷惑だ。
- ・公園利用に関し、規制緩和でなく、元に戻してもらいたいものだ。タバコだって広い公園内なら自由にすわせてもよからうに。
- ・小生なんか、狭い、スナックでママや隣の客人がタバコをすっているのを、じっと我慢しているのだ。お互い年寄りどうしなので、煙害での寿命云々はいえない立場もある。

(Chula Vista)



乗り継ぎに
危機一髪の
ロス空港

・サンディエゴ空港、21:40発。久しぶりに双発のプロペラ機に乗る。プロペラ機に乗るのは数十年前に、羽田から女満別にYS-11機で行った以来だ。

・狭い機内に乗客は30人ほど、日本人は私だけ。

・海岸線に沿って低空で飛行する。夜空の星が多くて、大きい。地上からの光は見えるものの飛行機までは届かないので、星空がきれいに見えるようだ。

・眼下の夜景がまた、すばらしい。特にロスに近づくにつれて、夜景が広がり、強く輝く。遊覧飛行をしているようで、こんなフライトもいいものだ。

・プロペラ機でゆっくりの飛行のため、ロス空港に着いたのは22:38。ロス発、羽田行きのANAは00:10だから、1時間42分の余裕がある、と安心していたら、乗り継ぎの案内はまったくなく、途中、人に聞きながらANAを探す。最初に聞いた人は、このまま前方に10分ほど歩けばいいという。でも、なんか変だ、いけどもいけどもANAが見つからない。空港内を循環するバスに乗ろうと、乗り込んで、運転手に聞くと、このバスではない、と後方を指差す。

しかたなく、また歩き出したが、見つからない。1階は閑散としていて、出発ロビーがあるような雰囲気ではない。2階に上がり、外に出る。そこでまた、聞くと、今度は戻ってまっすぐだという。やっとあった。ここまでで、すでに1時間以上経過している。最初の人がまっすぐ10分というのは正

しかなかったのだ。ただし、自分の足が欧米人に比べて、短いことを計算にいれていなかったのが間違いのもとだ。１０分で着かなかったら２０分そのまま歩いていれば、着いた場所にＡＮＡのカウンターがあった。

・日本人の社員がカウンターに１人残っていて、手続きをする。彼女は、「突き当たり左に入って、右側の最奥が搭乗口です」という。突き当たりを左にいくと、登りのエスカレーターがある、そこを登り、右折して行くと、途中に、食堂があるが、みな閉まっている。そして、突き当たるが搭乗口はない。いよいよ、時間が迫ってきた。急いでエスカレーターのところへ戻る。ここで、また、人に尋ねる。下に降りて突き当たりが入り口だという。突き当たりは何もない。ＡＮＡカウンターの近くだが、そこにはもう、誰もいない。途方にくれて、また、人に聞く。こちらは、もう閉まっているので、向かいの入り口から入れという。なんだ、エスカレータの横に身体検査入り口があったではないか。靴を脱ぎ、ベルトも外して、パスする。ノートパソコンとipadをカバンから出すと、係員はipadはそのままでもいいという。ipadはアメリカでは信用が高いのだ。

・やっとのことで、搭乗口に着いたら既に、半分ほど搭乗中で、出発時間の１５分前であった。あまり、あせって右往左往したせいか、喉がカラカラ。出発後にビールを頼んで一息ついたと思いきや、あまりあちこち走り回ったせいか、汗が出てきて、気分も悪くなってきた。こんな状態で日本まで持つかと心配になった。じっと我慢するしかない。目をつむり、呼吸を整えて、静かにしていたら、１時間ほどで正常に戻った。

・１２月２日から、サンディエゴ直行便が就航するという。これからは直行便に限る。

・でも、夜空と夜景を楽しみたい方は、ぜひ、夜間発のプロペラ機を使ってロス乗り継ぎがオススメ。ただし、現地の人が１０分といったら、自分の足の長さで換算することを忘れずに。

（サンディエゴ）



Photo 俳句

2012-11 卷03

陽香庵百合樹

井上勝彦（陽香庵百合樹）著
発行元 （有）日本ジャーナル社

Photo俳句(2012-11 No.03)

<http://p.booklog.jp/book/62031>

著者：陽香庵 百合樹

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/atec/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/62031>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/62031>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ